

APNIC 60 参加支援プログラム 参加報告

2025/10/17

近畿大学

中田 清登

はじめに

自己紹介

中田 清登 (NAKATA Kiyoto)

- 所属

近畿大学大学院 総合理工学研究科
エレクトロニクス系工学専攻 博士前期課程 2年

- 専門

- IPv6
- SRv6

参加目的

- インターネットガバナンスについて知る
 - アジア太平洋地域という最も人口の多いRIRにおけるルール作りや仕組みの理解
 - 番号資源の運用・管理の方法
- APNICにおける技術的トピックを知る
 - インターネット運用・管理の側面が強いRIRにおける技術的トレンドの調査
 - 自身の研究テーマと関連のあるIPv6の最新動向
- 国際交流
 - バックグラウンドの異なる参加者との交流

参加したセッション – Day5

- APStar Meeting
- APIX Meeting



[flickr – APNIC](#)

参加したセッション – Day6

- Newcomers Welcome
- APNIC Opening Ceremony & Keynotes
- **Networking Protocols - Technical Session 1**
- NIRs and APNIC in the Next Decade: Strengthening Roles, Collaboration, and Innovation - NIR SIG
- NextGen Navigator - BoF
- Welcome Social

参加したセッション – Day7

- The Breakfast & Learn session with Paresh Khatri
- **IPv6 Deployment**
- Network Operations - Technical Session 3
- Open Source Technologies - Technical Session 4
- APNIC / FIRST Security 2
- Lightning Talks
- Meet the EC Social
- APNIC Fellows Dinner

参加したセッション – Day8

- By-laws Consultation: Share Your Feedback to the EC
- **Open Policy Meeting - Policy SIG 1**
- **Open Policy Meeting - Policy SIG 2**
- APNIC Member Meeting 1
- APNIC Member Meeting 2
- Closing Keynote
- Closing Social

特に印象に残ったセッション

- Technical 1: QUIC
- Technical 1: IPv6: The neglected younger sibling
- IPv6 Deployment: IPv6 and IPv6 only promotion and deployment of Vietnam
- Policy SIG 1&2: Open Policy Meeting



[flickr – APNIC](#)



[flickr – APNIC](#)

QUIC

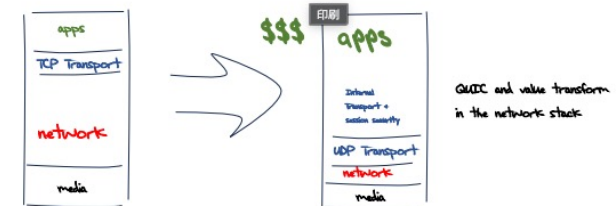
QUICの技術概要から普及率，今後のインターネットへ与える影響予測

- QUICは数年でTCPに取って代わる
 - ネットワーク層がコモディティ化
 - 経済的価値がアプリケーション層に傾倒
- QUICは単なる技術的改善ではない
 - There is no coming back from here

The new Networking Space

And this is why QUIC is so interesting – it is pushing both network carriage and host platform into commodity roles in networking and allowing applications to effectively customize the way in which they want to deliver services and dominating the entire networked environment

QUIC is the application's view of what Transport should be!



APNIC 60 プログラム

IPv6: The neglected younger sibling

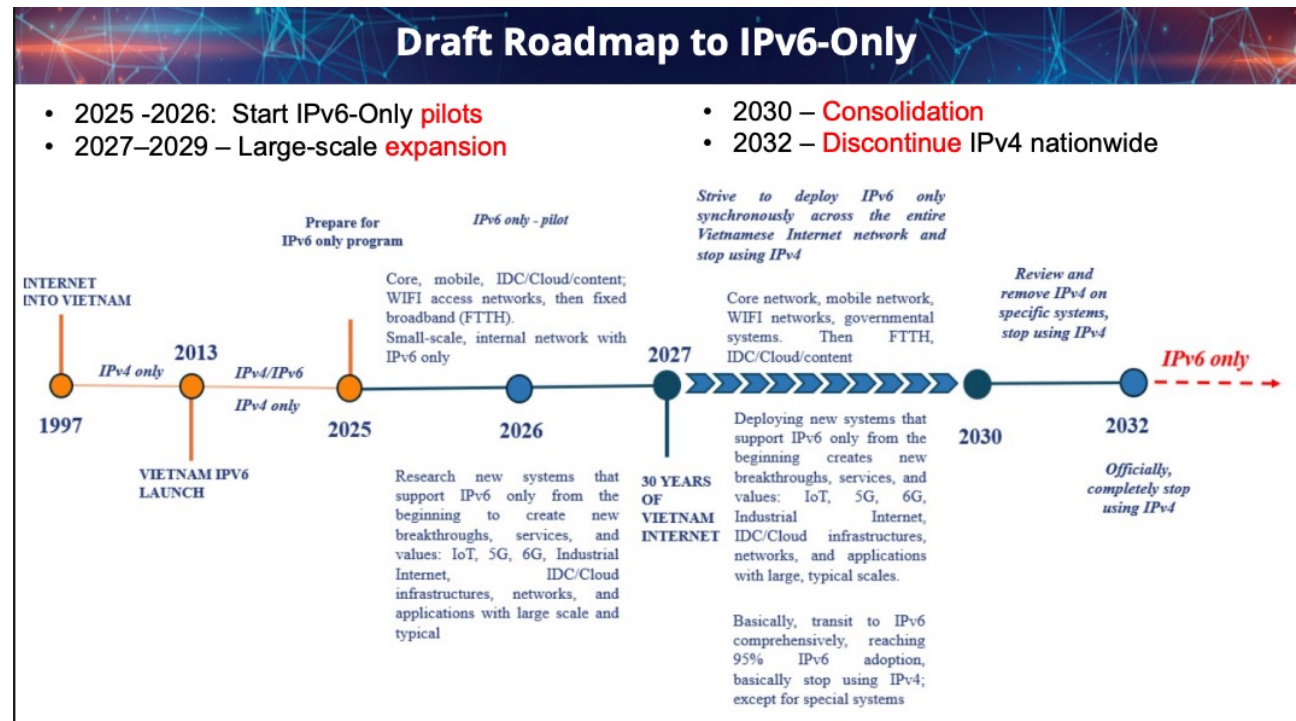
IPv6を教育・ドキュメントの分野においてベースとするための転換案

- IPv6の普及が遅れている主な理由は技術的な問題ではない
 - マーケティングとブランディング
 - 世界中のドキュメントがIPv4を詳細に説明, IPv6は次世代のように扱う
- IPv6ファースト
 - IPv6を基本として教え, IPv4は「legacy quirk」とする
 - 教科書・ドキュメントにおいて, まずIPv6を教える

IPv6 and IPv6 only promotion and deployment of Vietnam

ベトナム国内のIPv6-Onlyネットワークへの歩み

- 本セッションに限らず
会期中何度も見た図->
 - 国家プロジェクトとしての
熱意を感じた



Open Policy Meeting

APNICポリシー策定のためのオープンな議論の場

- 一番見応えがあった
- 5件中3件コンセンサス成立
- 個人的にprop-164に関心



[flickr - APNIC](#)

prop-164

Allocations of IPv6 Resources longer than a /32 with a nibble boundary alignment

- IPv6の最小割り振りサイズを/32から/36にするというもの
 - 正確なWHOIS登録を可能にする
- IPv6の最小割り振りサイズを変更することで、管理コストやルート情報にどのような影響を与えるかが気になっていた
 - 質疑の中でも、同じような疑問を持つ人が多かった印象
 - 本来の目的である、「正確なWHOIS登録を可能にする」ことに関する議論が出来ていなかった

APNIC 60参加支援プログラムの所感

参加支援プログラムに関して

- 一般参加では参加できないであろうプログラムにたくさん出席することができ、貴重な経験になった
 - APStar Meeting
 - APIX Meeting
 - APNIC Fellows Dinner
- 会期中のサポート
 - セッションの注目点や情報の補足など、初参加では把握しきれなかった部分を多くカバーしていただいた

APNIC 60参加支援プログラムの所感

APNICカンファレンス全体の感想

- APNICというコミュニティに関わるのは初めてだったので温度感を探り探り
 - 話で聞いていたよりも賑やかでカジュアルな印象
 - 毎日の懇親会と休憩時間中のケータリングなど、参加者と交流しやすい雰囲気
 - コミュニティ全体で若手同士での交流の機会創出や育成をサポートするための環境が整えられている



コミュニティに溶け込みやすい雰囲気
意見交換の場が多く、ポリシー策定をボトムアップで実施しやすいような雰囲気
を感じた

今回の経験で得たもの

- インターネットガバナンスについて知る -> ◎
 - ポリシー策定をオープンな場で議論することでポリシー策定のリアルを体験できた
 - さまざまなSIGのセッションを聞くことで、運用における情報交換の様子を見れた
- APNICにおける技術的トピックを知る -> ◎
 - 技術的なセッションも多く、どの技術が注目されているか背景から知ることができた

今回の経験で得たもの

- 国際交流 -> ○
 - さまざまな国の参加者と交流を持つことができた
 - 言語の問題で自身の関心のあるテーマについて相手に意図した通りに伝えられない場面があった



今後の展望

- これまではネットワーク領域の技術的側面を考えることが多かった
 - 今回の経験で得た知識は、私のネットワークに対する見方を多角的にしてくれた
 - 今後の研究活動や業務では、技術が社会で運用される場面を考えながら取り組んでいきたい
- 国によってインターネットが普及した年代や背景は異なるため、ある国で普及した技術がある国では普及しないといったことが考えられる(今回だと、IPv6-Only)
 - 今後は国ごとの背景も意識してグローバルな視点でインターネットと付き合っていきたい
- APNIC 60でできたコミュニティとの繋がりを大事にしていきたい
 - 次回以降のAPNICにもできれば参加したい

おわりに

今回の支援プログラムにあたり，サポートくださったJPNICの皆様，協賛企業の皆様，関係した全ての皆様に感謝いたします

